

産業界の研究開発におけるゲノム情報の利用のあり方**開催趣旨:**

2018 年 2 月にハーバード・メディカル・スクールの George Church らが共同設立した Nebula Genomics 社は、提供者のゲノム情報の、研究開発等での利用履歴をブロックチェーン上で管理し、利用頻度に応じて提供者に「トークン」を還元するモデルを発表したことで話題となった。

提供者の同意に基づくゲノム情報の利活用は世界的に広がっており、日本でも産業界の研究開発においてゲノム情報および健康情報の利用のモデルの検討が進められている。個人情報保護法が改正され、次世代医療基盤法が制定されたなか、各社が手探りで個別に検討を進めているのが現状だと思われる。この際、法的には提供者の同意に基づけばよいものの、同意取得が形骸化している問題も指摘されている。

このような動きを踏まえ、産業界での方向性やコラボレーションのあり方について会場の皆様と情報を共有し、将来的なゴールや課題について議論を深めるセッションになれば幸いである。

モデレーター:

茂柳薫 Kaoru Mogushi, 富士通株式会社 Fujitsu Limited

神田将和 Masakazu Kohda, DeNA ライフサイエンス DeNA Life Science, Inc.

荻島創一 Soichi Ogishima, 東北大学東北メディカル・メガバンク機構 Tohoku University

1. Genesis Healthcare におけるゲノム情報を活用した研究と取り組み

根岸 公祐 Kosuke Negishi

ジェネシスヘルスケア株式会社 Genesis Healthcare Co.

2. エンゲージメントサイエンスを活用した DTC 遺伝子検査サービスの可能性

三宅 邦明 Kuniaki Miyake

株式会社ディー・エヌ・エー Chief Medical Officer (CMO), DeNA Co., Ltd.

DeSC ヘルスケア株式会社 CEO, DeSC Healthcare, Inc.

3. 臨床研究情報と個人健康情報(PHR)の活用に向けた課題と展望

山口 昌雄 Masao Yamaguchi

アメリエフ株式会社 CEO, Amelieff Corporation